

件名	H30 第7回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会		
日時	2019年3月7日(木)19:00~20:30		
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館 2階大会議室		
出席者 (敬称略)	(委員8名)遠藤公章、石沼友、西田貴頼、澤志任、田嶋昭彦、中尾輝夫、渡辺由佳、石井美佳代 (小さな拠点検討協議会コーディネーター・C o)地域活性化伝道師 澤田廉路氏 (オブザーバー) ・石脇区長、泊1区長、泊2区長、泊3区長、泊4区長、泊6区長、園区長、原区長、宇谷区長 ・県中部総合事務所地域振興局 山口リーダー、米原係長 ・地域おこし協力隊 辺隊員、鳥山隊員 ・海の駅とまり協議会 氏良介 (事務局) 湯梨浜町役場町民課 杉原課長 湯梨浜町役場みらい創造室 仙賀副町長、遠藤室長、谷岡主事 計27名		
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	小さな拠点検討協議会議第7回レジュメ、湯梨浜町泊地域拠点基本計画(中間報告)、小さな拠点提案書		

1. 開会

(会長)それでは定刻になりましたので、まだご出席でない委員、それから、オブザーバーの方もいらっしゃいますけども、これより湯梨浜町泊地域小さな拠点協議会の方を開催したいと思います。協議会の会長をさせていただいております、どうぞよろしくお願ひします。本日は急に寒くなって出にくいところ委員のみなさま、そして各区の区長様、オブザーバーとして、ご参加いただきありがとうございます。忌憚のないご意見をいただけたらと思っております。

2. 会長あいさつ

(会長)レジュメに従って、会長あいさつという事ですが、あいさつというより経過の方もですね、一応、町の方に対して今年度の頭にですね、協議会としての提案書を出させていただいた訳ですけども、その以前に1年くらいかけていろいろみなさんのご意見をいただきながら進めておりました。当初協議会の目的としては、古くなった施設ですね、泊支所とか役場とか、中央公民館この分館、漁村センター、青少年の家、そういったものの今後の方向性ということと、それに伴って今泊地域に買い物難民といわれる方もいらっしゃいますし、そういった方々の利便性も考えた施設を考えていかなきゃいけないんじゃないかという事で始まりました。当初いろんな制限というのはあまり考えずに、どこら辺が便利でどういった機能があつたらいいかという所から入っていきまして、そうするとやっぱりどうしても買い物機能であるとか、こういった公民館施設も高いところにあると利便性が悪いんじゃないかとか、それだったらその中に役場機能も一緒に入ってしまうと利便性が上がるんじゃないかとか、意見としてあつたりして、場所もアンケートを取った時も、公共施設として使えるような所が今の青少年の家の辺りとか、この公民館の場所、もしくは一番公共用地は少ないにしても港周辺であるとか、今の役場の周りであるとか、ああいった、いけば平らな部分、坂を上って行かなくても良いという所で、いろいろ住民説明会、アンケートを取った中で、場所の候補として選んでいった時に、やはり意見としては坂を上っていかない平らな所が良いだろうという事で場所の選定としては入りました。ただ、場所といっても、建物があつたり、密集地などある程度のスペースが取れないという事で、港周辺が単純に良いんじゃないかという意見があつた中で、行政サイドも制限を調べていく中で、津波というのが東日本大震災で8年前にあつて、そういった事を考慮すると港のエリアというのは、非常に危険な地域だという事で、なかなか行政が今後建っていくものとして、適当ではないのではないかという報告も出たりしながら、今の旧役場のある辺りも含めてのエリアと、ちょっとエリアを広げて、提案書の中には盛り込んでいきました。それと施設に

についても、出来れば行政サービス、コミュニティ機能それから一番必要なのは店舗じゃないかという事で、そういったものを考えたものとして建てればいいんじゃないかという事で、提案をしました。その中で委員としても方向が変わった部分が、どうしても津波の心配がある地域にそういった建物が不相当かというところでもないんじゃないかということも出てきた中で、それであれば、もうちょっと建物を建てる範囲が広がるんじゃないかという所で、現在の方向としては、買い物機能はやはり利便性が良い、車着きも良いような港周辺が良いんじゃないかというような方向で今進んでおります。そういった時に同じ平面的なエリアで距離もそう遠くない役場っていうのは、当初泊役場の改修には相当な費用がかかるんじゃないかっていう所で、それだと一緒につくかなっていうことがあったんですけど、どうも調べていただくとそんなに今の建物で改修費であるとか、極端にコストがかかる訳でもなく、今のまま維持出来るという事があつたりしたもので、拠点のエリアとして、そのままでもいいんじゃないかというような所で方向としては進んでおります。そういった細かいところの情報がなかなか住民の方々には伝わってない部分もあったかなあという部分もありますけど、そういった中で、店舗を作って維持していくというなかなかこの泊地域のエリアの中だけで、新たに店舗を設置してほんとにやっつけていけるのかなという不安も委員の中には実際心のどこかにはありました。そんな中で実はもうひとつ、私が会長をやらせていただいております、泊地域海の駅協議会というのが、小さな拠点協議会より若干遅れ気味で始まりました。これは小さな拠点協議会がどちらかと言うと地域住民の方々の為になるような拠点づくりという観点と、若干変わって海の駅協議会というのは、ここに外貨を落としてもらいたいと、外から交流人口を増やすためにはどうするだろうと、これだけなかなか経済的にもお店が店舗がたくさんあったのに無くなっていく、ここに落としてもらえるお金がだんだん無くなっていく、どうしたらもう少し何とかなるんだろうか、既に今ある事業所も含めてですね、特に、そういったところが連携して、海を中心にこの魅力的な泊に、もう少し外から来ていただいて、お金を落としていただいて、経済効果をもたらすことが出来ないかという事の協議会を作って、そちらはそちらで動きながらやっておりますけど、ずっとこの2年近くかけてやる中で、店を維持するのは住民だけではなくて、他からも来てもらった中で、買い物してもらって、経営として成り立つ、交流人口を増やすことで泊の活性化に繋がるという事で、これは、ふたつがひとつになって考えていかなきゃいけないんじゃないかなあという所まで、両方の委員さんの意見がまとまりまして、新年度からは2つの協議会が、拠点を作る事も含めて、この泊地域をもう少し活性化していこうという事で動きを始めております。ちなみに海の駅協議会は港周辺の元気海さんとか、石沼さん、今はちょっと閉鎖しておりますけどサカナクワイ屋、それから丘の方に行くと、グラウンド・ゴルフの潮風の丘、それから石脇側に行くと、栽培漁業センター、サーフショップもありますし、民宿海晴館があります。そういった所がもう少し横の連携を持って、それぞれ来るお客さんをもう少し横に流していこうかなあ、というような動きでやっています。潮風の丘にも年間4万人くらい人が来るらしいんですけど、そういった人たちが周辺においていて、あまり経済効果がないんじゃないかって事があるので、そういった所で活性化していく、そういった人たちが小さな拠点の買い物機能を使ってくれることによって、維持できるんじゃないかなあという事も含めて、ひとつの協議会としてこの拠点づくりと活性化に向けていったらいいんじゃないかという事で、進めておまして、4月からは一本化して、検討していくようになりました。説明会でもお話しさせていただいておりますけど、この拠点を作った時に維持するために住民の方のご協力とご理解がないと、作った後は、先細りで維持できないとなったら大変ですので、今後は委員のみなさんを始め、各地区の区長さん方、区民のみなさんに買い支えとか、維持していくためのご協力を十分にお願ひしながら進めていかないといけないと思っておりますので、そういった事も含めてみなさんの忌憚ないご意見をいただいて、なんとかこの泊の地域の中で、生活の利便性が上がるような事を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。挨拶としては以上でございます。

3. 各公共施設（役場泊支所、中央公民館泊分館、漁村センター、青少年の家）及び買い物機能の検討状況について

（会長）では続きまして、レジュメに沿って、今現在の公共施設の現状というものを各担当の方から、ご説明いただけたらなあと思っておりますが、最初に泊支所についての現状と今後の事についてお話をいただけたらと思っております。

（事務局）今日は非常にたくさんの区長さんに集まっていたありがとうございます。私もちょっと前に聞きましたら、今公民館関係で新しい施設を作っていくのに、当初この小さな拠点の中で一緒

に物事を考えていく、それが分離して分からない、それとどういう風に違ってきたのかという事が議論の中にあつたというのを聞き、確かに一番最初に各区長さんに集まっていたいて、ここの小さな拠点の中で各集落を歩いていろいろな要望を聞きながら、アンケートをとって、で、今の複合施設を公民館を中心にした物を作ろうという所から小さな拠点は始まった、で、実はそれをやろうとした場合に、ここの拠点のメンバーを含めてなんですけど、ほんとにそこに人が集まるのかどうか、当初の問題に突き当たって、私も今年から、平成30年度もうじき終わるんですけど、平成30年度から担当として入ってきた時に、果たしてそこに町民の方が公民館を中心として、こういう高台の所に複合施設を作って、果たして町民の方にとって喜ばれる施設になるのかどうかと、ひとつ自分の中に疑問があつたわけです。ただ、ここに複合施設を持ってくる大きな理由に会長がおっしゃっていた津波の問題、自然災害の時どうするんだという事がひとつの問題提起があつたように思っています。今までの流れを見てみると、ところがその後県なりが示していた津波の影響範囲が去年変わりました、新しい情報をみていると津波の影響はほとんどない、泊地域の中では。だったら、ひとつの中に集約するのは、拠点の考え方でなくてもいいのではないかと、みなさんが使えるようなゾーンを作って、それぞれで利用しやすい物を作っていった方が、泊地域の為になるのではないかと、という事で、会長が言った通りの状態になった訳です。その時に最初に言った通りこの違った事をどういう形で町民の方に泊地域の方にお知らせするんだよという所の議論をした経過もあります。で、その経過で会長の方から提案書が出されたときにこれを全戸配布しようと、泊地域の方だけに全部出す、提案書として出したんです、要はこういう風に方向転換して、こういう形で小さな拠点を進めていきますと、泊地域の方全員に出したんですけど、私が聞いてたら、誰も知らない、まあ町報に出した、こういう風に泊地域の方だけにこういうビラ出したんですけど、見ていただけなかった。これは行政の方としては反省すべき点もある訳です。ただ単に、例えば音声告知器、TCC、あるいは町報なり、こういうようなビラも一緒に配ったよと、そこで自分たちは完結していると思ってる。ところが実態としては、きちんと見ていただいている方は非常に少なかった。これは反省すべき点でありますし、今回公民館建築にかかる時に、そういうその苦情も寄せられたという事をお聞きしまして、今日は、みなさんに声をかけさせていただき、このようにお忙しい中区長さんがたくさん集まってお聞きいただき、実は町としても感謝したいと思っています。今議会の最中なんですけど、そこの中でも泊の議員さん方から、これはほんとに町民の方のどれだけ知っているのか、という話も出てきました。だから、町報に出てた、何してたというよりも、こういう声をかけていって、みなさんと一緒になって議論をしていく、あるいは、オブザーバーとして入っていただいて、部落の中に持ち帰って、良い時に話が出来るといふような形が作れてなかったんだなあという事で、実は非常に反省しております。今後こういう事がないよう、これは泊地域のみなさんの為と一緒にやっていこうという事業でありますので、情報は各区長さんには今後はきちんと流していって、一緒になって泊地域を少しでも良くしていくような方向をとっていきたくて思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。それぞれ施設の担当が来ておりますので、泊庁舎、あるいは漁村センターが担当になってきますから、その話はこちらの方からしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(事務局)今日は役場施設の関係で話をしてほしいという事で、こちらの方に来たわけですが、まず、泊支所の案件と致しまして、建築年とかつていうのがございますけど、これが泊支所の建築年が昭和46年10月です。RC鉄筋コンクリート造でございます、耐用年数が50年でございますけれども、今現在が48年たっております。それと、みなさんの方も泊支所の方をご存じだと思いますけど、1階は事務スペースになっておりますけど、2階の方にFTTHという通信関係で要になるものが置いてあります。これを移動するっていう事になれば、多額のお金がかかるという事でございます。そういう所を念頭に置いて今回、みなさまの方で検討していただいた提案書の方を見てみますと、機能を継続し、改修という事で提案が出ているようでございます。それを踏まえまして、この方向でそのまま、今の位置に役場機能は置いておきまして、建物の方は耐震改修をするという方向で行くかなと、という所で考えておるところです。それから先ほどありました漁村センターの建築年が、昭和57年3月という事で、こちらの方も鉄筋コンクリートでございます、耐用年数は50年でございます。現在37年という事もありまして、その辺の兼ね合いもでてくるんですけど、今漁村センターは地域の方のコミュニティというところで、会合等使っていただいているところでございます。泊支所の中にコミュニティ的な施設を改築した時に設けて、ゆくゆくは漁村センターを解体という話になっておまして、その辺を汲みながら、次をどう進めていこうかなと思っておるところでございます。今現在平成31年度の予算には設計等の予算は計上しておりませんが、32年以降考えて

いくという事で進めていくところでございます。以上です。

(会長)はい、ありがとうございます。よろしいですか？何か？

(事務局)泊庁舎なんですけど、実は耐震診断では、改修しなくてはいけない、4階建てですので、非常に改修費がかかるっていう形にはなってるんですけど、ただこれだけの施設ですので、みなさんが中で使われる機能も改修の時に加えたらどうかと、例えばほんとに漁村センターを壊すんだったら、それに代わるべき物がないと、施設を壊すだけが行政のやり方ではございませんので、そこに何らかのコミュニティ機能は今の施設の中に取り入れていくのがいいんじゃないかなという思いはありまして、それをこの中で議論していただくように今考えております。極端な言い方をすれば、きっと合銀さんのATMの辺りも、今の場所ではできなくなるような気もありますし、それだけではなくして、常時入れるような施設管理出来る場所ならいいのになと、その辺の事を踏まえて少し時間を要しますけど、検討していきたいなという風に思っております。漁村センターの在り方は、実は議会の時にどうするのかと言われた時に、「まだ検討しておりません、壊す」という話になってますけど、そうなってますけど泊3区から5区かな、公民館がない部分をどうするのかという結論も含めて出す必要がありますから、その3区から5区の区長さんの意見を聞きながら、どうやっていくかという事を、そこが抜けているところなので、その辺のところも議論しながら、平成31年度の中で、やっていければなあと思っております。

(会長)はい、この中で初めて知ったんですけど、2階の施設でしたっけ、ケーブルテレビかなんかの、あれって、結構すごい設備でなかなか移動すること自体が大変だっという事があって、あれを何とか維持しないといけないってあったって聞いたんですけど。

(事務局)あれ自体がですね、移動するとなれば億の単位がかかるようでして、来る前に担当と話したんですけど、1億3千万から2億くらいかかるっていうような事を言っていましたので、今の光ケーブル自体が、耐用年数があるようでして、それが10年らしいです。そういうものも含めながら、移設を考えるとかっていう話をしておりましてけど、実際どうなのか分かりませんが、現在ではまあまあ・・・。

(会長)そういう状態になってるという事ですね。そうなるくと維持もしながら有効に活用しなければいけないと必然的になってくるかもしれませんね。分かりました。では。

(事務局)公民館、泊分館なんですけど、これは実際、教育委員会、生涯学習・人権推進課の方で検討されているという事です。基本となる所が提案書の中で、機能は拠点の方に移行せず継続させていくという事の中では、建物は将来古くなっていくので、解体という事が出て、じゃあその後どうするのかという事に新築という提案書が出ましたので、そのことについて教育委員会の方で検討されまして、区長さんはこの間の区長会で話を聞いてられると思いますが、場所はこの場所、要するにここは図書館があり、歴史民俗資料館あり、体育館あり、要するに教育ゾーンのひとつだという事の中で、この場所に建替えるという事で、現在具体的な検討を始めているという状況です。最近になりまして利用者団体からの意見を聞く会を持たれましたし、当然泊の区長さんも来られてそういった会もありまして、そういった中で具体的に今後詰めていくという事で、聞いている話では、来年度基本設計に向かうという事で具体化していくという事のように思います。それで、青少年の家については、将来的に古くなっていくので解体という事が出ているんですけど、公民館を建替えるに当たっては、青少年の家を代替施設として使っていくと、その後、解体等検討していくという事を聞いているという状況でございます。今知り得ている範囲ではこういう所です。

(会長)委員のみなさんで今の状況報告でなにか、ご意見・ご質問等ございますでしょうか。はい、ではまた区長さん方からも後ほどご意見いただきたいと思っております。

4. 基本計画(案)について・・・資料1

(会長)では、次の基本計画(案)について、資料1という事で、これは事務局ですか。

(事務局)その前に、コーディネーターさんを、区長さん方ご存知ないと思っておりますので紹介だけさせていただきます。

(C o)こんばんは。県庁に33年間おりました、鳥取大学の方に去年まで5年間おりました。専門は地域学とか地域振興論を地域政策学科で教えてました。そんなような縁があって、手伝ってもらえないかという相談がありまして、良いですよという事で、今年からこの委員会のお手伝いをする事になって、計画の策定にお手伝いをしているところです。中身についてはまた、説明します。

(事務局)コーディネーターの方から、要は今年の夏から加わっていただいて、具体的に買い物機能を中心にコーディネートしていただいているという状況です。でレジュメの方の4番基本計画という所

ですけど、これは主には買い物機能という事になります。みなさんにお配りしている資料に基本計画の案を付けさせていただいています。先ほど会長の方から説明があったんですけど、泊の漁港周辺に買い物機能があった方が住民のみなさんは利用しやすいのではないかという意見がございましたので、コーディネートをいただきながら、委員のみなさんで、利便性ですとかメリット、デメリット等出し合って、なんとか今基本計画という形になりつつあるという状態です。ひとつ今お配りしているような形で、これはあくまでたたき台ですけど、今月中には完成させる予定では考えております。こういった形がひとつ出来上がってきましたので、今日は委員のみなさんからの意見と、区長のみなさんからもご意見いただければと思い、今日の間を設定させていただきました。具体的な基本計画についてはコーディネーターの方からご説明いただきたいと思います。

(C o) レジュメをはぐっていただいて2枚目から基本計画の素案があります。基本的にはみなさんのご意見を聞きながら買い物機能が欲しいという事と、みんながちょっと集まって話ができる場所が欲しい、それからちょっと事務的な機能もあった方が良く、というような事と、買い物機能プラス地域の直売コーナーみたいなものを、地域の人にも販売しますが、外からの人にも販売できるような所になれば良いのかなあという事を、この小さな拠点の検討委員会のみなさんの意見を聞きながら、その画を描いたところです。資料はぐってもらって、今までの経緯、問題意識とかいう事で、人口は減るし、事業所はなくなるし、そうすると従業員、働く人も少なくなるという事があって、いろいろ問題があるという危機感があって、何とかしなくてはいけないという事でみなさんの意見を聞きながら、泊の弱み、強みとかっていう、これは一昨年からやられているようですけど、それをもう一回整理をし直して、この計画を策定するうえで、再認識するために、もう一回みなさんと話し合う中で、強みを活かし、弱みを強みにあるいはチャンスをいかす方法を考えようという事で、漁港という強みとか、あとその他の農産物、漬物とかを活用したような物をこの買い物機能の中に入れるという事で、食品加工コーナーがある買い物施設という事で5ページ目ですね、活性化の取組み、地域の課題解決を形にするというような図面も描いてます。そういった意味で買い物機能プラス簡単な加工もできるようなスペースを設けて、なお且つそこが食べれたり、買って、販売するようなエリアを作るという事で、そういった意味の図面を描いた訳です。それから、地域の人だけじゃなく海に来た人たちのためにもトイレがあったり、あるいはシャワーがあったりという事もちょっとですけど加えて絵を描いたというか図面を描いてみました。具体的にも少しいろいろと考えたり、中身を詰める必要があるかもしれませんが、イメージ的にはこんなことを考えて、みなさんの意見を伺いながら、中身はまた詰めていこうと思いますので、とりあえずはたたき台の画あるいはプランという事で、お示しをしています。実際にこれを運営するとなると、金・人・モノが必要となってきますので、その辺をちょっと考えながら字がちよっと小さくて見づらいですけど、実際にはいろんな制度を使ったり、どういうものが必要なのかという事を今後詰めていきながら、運営の戦略を練っていきたいという風に考えています。みなさんの意見をお聞きしながら、平面のプランも変わってくるかもしれませんが、みなさんの意見や要望を聞きながら、出来る範囲内で反映させていきたいと思っております。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。前回参加していただいた委員さんは一回見てられますけど、今回初めての委員さんもいらっしゃると思います。前回以降委員さんの方で何かしら持ち帰られて、ご意見とかいただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。前回も意見をいただいておりますけど、どうですか。

(委員) この計画書を作った一方で、今コンビニの誘致にも取りかかっておられる、で、もしコンビニが決まった場合は、もう一度計画の変更というのがやり直してという事になるのでしょうか。

(事務局) 当然です。

(会長) コンビニサイドの店作りっていうのがあると思うから。

(委員) コンビニ誘致のスケジュールっていうのをもう一回教えて、どれぐらいまでに分かるのか。

(事務局) 基本設計をいつ、完了するかによると思ってるんです。今基本構想までやってるんで、これが次に基本設計にかかる時に、コンビニを入れるかどうかという議論が出てくると思う、発注するまでにそれが決まっていきたい、それが、夏なのか、秋なのかその辺が限度かなあと、出来たら夏までにさせていただければ。

(委員) 夏までにコンビニがくるのか、っていう事を決める必要があるっていう事ですか。

(会長) そういう事です。

(事務局) 夏までがいいんですね、そうすれば発注時期が早くなって、基本設計ができますから。

(C o) 夏までって7月、8月とか具体的に何月ってあります？

(事務局)8月ぐらいですかね、盆までに。

(C o)盆まで。

(事務局)はい。

(委員)コンビニの話ってちょっと分かんですけど、どういう事ですか。

(会長)何回か議論の中で、現地視察にも行ったんですけど、普通の商店っていうか、その地区は、スーパーの小っちゃいようなお店があって、全国展開しているところに視察に行ったんですけど、ハッキリ言って商品力が弱いと感じました。実際、近くの地区にも同じマイクロスーパーが入ったんですけど、ちょっと商品力が弱いんです、どこにでもある商品なので、日常生活、通勤で買ってしまえばっていうレベルの物なので、やっぱりコンビニっていうのはそういう意味で戦略が強いのと、プライベート商品が強いので、コンビニだったらこの辺で、若い人が週末、大型店で買い物して帰って、地元で消費してない人でも、コンビニがあると朝晩よるんじゃないかと、同じお店に来ていただくんだったら、コンビニの方が商品力、今コンビニもセットで生鮮物を販売するところもあるので、コンビニっていうのをこの議論の中で出していったんですけど。

(委員)コンビニをよぶ話をしとるですか？海の駅とまりですか？

(会長)いえ、ここですよ。こっちで。

(委員)おとといの区長会にも少し話をさせていただきましたが、社協の事業の紹介という事で、乗り合いバスというのを紹介させていただきました。乗り合いバスっていうのが、高齢者の方で要介護の方でなくて、バスの乗り降りができる方という事で、1週間に1回金曜日に、泊から羽合に行くバス、それから東郷から羽合に行くバス、だけ運行してます。これは買い物が出来ないという事で、泊地区ですね、こちらの高齢の方を羽合のスーパーだとか、それから病院とか役場とかという所にお連れして、買い物して帰っていただくっていう事しかやっておりません。ただ、今後は海の駅の協議会と4月以降一緒になるという事で、そこには外からのお客さんと呼ぶてなると、また小さな拠点がどんどん大きく膨らむんじゃないかと思っています。となった時に、泊、東郷から羽合に行くだけじゃなくて、今度は羽合の方から泊によぶってという事も考えてバスを運行することも今後社協としても計画していかないといけないと感じているところですので、今後、将来的に、年度をね、これが出来たら終わりではなくて、将来的に何か年かの計画で、どんどん大きくして行って、泊をですね、ほんとの泊、ここに来ていただく地域になればいいのかなあと言う風に考えております。以上です。

(委員)この協議会で決まったことは出来る限り応援したいと思っておりますし、基本的には、設計というか、コンセプトが出来ないとなかなかいろんなものが付いてこないと思いますけど、先ほど、事務局からATMの話が出たのであれなんですけど、ATMの方につきましては各拠点が出来て、住民様の要望で、今の海のとこなのか、旧庁舎の方なのか、こっちの方っていう事がもしあればですね、また、その辺を教えていただけたらと思いますけども、先ほどコンビニの話が出ましたので、もし仮にこちらのとまりん場の方にコンビニが入りましたら必然的にATMが付きますので、そこに2台付くっていう事は基本的に考えにくいですので、今の役場の泊支所の方っていうような要望になるのではないかなというのが、今お聞きして感じたところでございます。以上です。

(委員)ちょっと中、飛んだるんだけど、コンビニの概念っていうか、そういう所にあるコンビニって丸投げっていうか、ああいうのでこっちが携わらなくても、そういうコンビニ？

(会長)いや、今コンビニも地域貢献型のコンビニがあったりするようですので、まるっきり都会のビルの中のコンビニをすんとそのまま持ってくるだけではなくて、プラスそこで補えるような泊の魚をどっかで分けながらとか、野菜とか、いう物もやっぱり考ないといけんじゃないかなあと思いますけどね。

(委員)分かりました。

(委員)前回欠席だったので、内容が把握できてないんですけど、コンビニが出来るとっていう話を初めて聞いて、あっ、出来るかどうかまだわからないけど、出来るんだったら結構コンビニはシビアなので、売上げが下がればすぐ撤退しちゃうから、その辺を応援というか、助けるというか、何か考えていかないといけないだろうなと思うし、ATMって言われましたけど、コンビニのATMは良いんですけど、手数料がばかにならないという、普段でも108円、時間外で216円、って聞いたんですけど。

(委員)あまり詳しい事は知らないんですが、コンビニは、全部一律ではありませんので、どのコンビニさんが入るか若干変わってくるかと思えます。どういう契約になるかで答えがちょっと変わってくるかもしれない。

- (委員)あとはそうですね、東郷まで行かないといけないっていう事になると、羽合みたいに通帳入れのできるATM欲しいですけど。どうにもなりませんか。
- (委員)コンビニのATMは、銀行が付けるわけじゃないので、その。
- (委員)やっぱりそうだと、独自の合銀さんの方が。
- (委員)ただ同じ施設にATMが2台あるっていうケースはなかなかないので、先ほどのコンビニさんが出来た時の稼働率の事をいっとられたんですけど、ATMも稼働率で決まってくるので、もし極力使っていただくのが一番、維持したりっていうのは、非常に有効的だと思います。
- (会長)そういう声があればどんどん住民の方から挙げていただいて、役場の機能の方につけていただくよう要望するとか、そういう形でいいんじゃないですか。
- (事務局)役場の方に入れてもらった場合、占領料をもらってもいいですか。
- (委員)別ですね、ケースバイケースだと思います。役場さんからのご依頼で是非入ってほしいという事でしたら、そういうのを払わずにはいるケースも多々ありますし、銀行の方からは是非入れたいという事であれば、当然払うケースもありますし、それは、今の現状では分からないところです。
- (委員)公民館機能と漁村センターはゆくゆくは解体なんですよ、それも新たな拠点で出来るようになるんでしたっけ。公共施設の機能はこの案の中には入らない？
- (会長)ないです、それは。
- (委員)入らない？買い物施設？
- (会長)それと、コミュニティ。
- (委員)やったことないんですけど、倉吉駅にあるような、住民票がとれる、そういうのも無しなんです？
- (会長)それは、今の役場の中でやる、そんなに離れてない、エリアとしての拠点地域っていう考え方。
- (委員)買い物機能だけだとちょっと不安です。今更ですけど。
- (委員)コンビニの話が出てるんですけど、テレビでも話題になっただけですけど、働き方の問題でほんとに24時間必要かっていうので、実際ほんとに24時間のコンビニが来てくれるかどうかという問題もありますので、ってなった時に、果たして今買い物機能って言うてるんですが、例えば8時から全部閉っちゃいました、何か買いに行きたいのに、働いている方はそれからね、買いたくても買えなかったっていう時の対応策、そう言った事も考えておくとか、例えばまあ自販機があるんですけど、今いろいろな自販機がありますね、卵が出たりとかおでんが出たりとか、やっぱりそういう所にも声掛けして、コンビニが24時間営業できない時の事も考える必要があるんじゃないかと思えます。
- (会長)今コンビニも24時間1本通してるってメディアでは言いますが、実際にはコンビニも地域によって、時間営業をやってるみたいですよ。例えばお客が3人しか来ない夜中12時から4時、5時台って、それこそ赤字の垂れ流しになっちゃいますからね、そう言った事はコンビニサイドは考えているようです、実際のところは、24時間営業には必ずしもこだわってないっていうのがありますので。特に泊地域の方になれば、そういうニーズってどれだけあるのかなあって、これから、住民の意見も聞きながらっていう事になりますけどね。
- (事務局)今、泊地域のところには酒屋がないですね。
- (会長)石脇まで行かないとないです。
- (事務局)園はどうですか？園にはないですか。
- (委員)1軒、やっとならあります。
- (事務局)泊の中には無いよね。泊区。
- (会長)無いですね。
- (事務局)自販機もないよね？
- (委員)自販機も無いですね。
- (事務局)そんなはさみしいな。
- (会長)そういう状況で。地域の实情に一番合った店舗を考えていかないといけないだろうかと、維持できるものを、という事で。もしよろしければ、各区からいらした区長さん方からもご意見がいただけたらと思いますけど。
- (区長)自分の区が消滅するという危機感を非常に抱いていて、そういう所では非常に共感しています。一方でさっき乗り合いバスの話があったんですけど、それって、どのくらいの頻度で、要するに、自分の地区にはそれしかないの、行きたい時に何時でも行ける状態を作ることが出来るのかどうか、っていうことと、この小さな拠点の中で、新しく区長になったので経緯が分からないんですけど、宇谷地区・原地区・筒地地区、その辺の住民に対しては、どのように参加していただけるかを

議論されたかどうか聞きたいと思います。

(会長)最初に買い物。

(委員)バスの関係ですが、今東郷、羽合、泊地区で40名程度の方が登録されてます。それですね、基本的には1便、羽合、泊地区の方は1便です。東郷地区の方は2便動いています。週に1回です。というのも社協が保有しているバスが1台壊れてますので、1台しかありません。その他に1年で稼働率が、1台のバスが110何回動いてるんです。このバスをフルに動かしていく事は、他の団体等がご利用になる場合もありますので、基本的には週に毎日動かしていく事は考えにくいところです。

(区長)そういう状況がもしであれば、遠方の住民が来づらい状況、そういう状況の中で、小さな拠点の中で、どういう議論がされたかという事が私は知りたいと思います。

(会長)特に小浜、筒地、宇谷地域のご意見からもいただきまして、何店舗も構えるのは無理なので、その時には、移動販売であるとか、移送サービスというのを併せて考えないといけないのかなと、それは店側から出向いてやるのか、各地域と一体となって、地域側から送り迎えするかっていう、そういった地域と一体になった移送サービスとか移動販売というのを併せて考えていかないといけないだろうなあ、という意見もかなり出てましたし、逆な意味である地区の方は泊に目向いてないから羽合の方を向いてるからあまり気にしなくてもいいよっていう意見も実はあったりもしたんですけど。

(区長)いやいや、そういう事で動いているんですか？

(会長)いえ、全く違います。そういう意見もあったんですけど、そうじゃなくて、この旧集落のエリアで考えた時に、この拠点を考えた時には、そういった意見もあったけど、移送サービス移動販売で補っていかないと、エリアとしてカバーできないんじゃないかという所がこの協議会の提言という提案です。よろしいでしょうか。

(区長)初めて聞きました。分かりました。

(区長)ちょっとお伺いしたい事があって、この活性化っていうのは人がたくさん来るようにする事もひとつの集まりっていうか・・・。

(会長)そうです、いわゆる交流、一般に交流人口、関係人口を増やすということですね。

(区長)この中の図を見てるとね、食べたりする人がなんか、もうちょっとなんとか若者がもっと来るとかね、これからの世代を背負って行かれる方々が外からも来ていただいて、内から盛り上げていくとか、全然若い人が来るような感じが、一時は流行っても、割合に鳥取県の方は飲食店なんか最初は行くけどあとが続かんが。これがそうだとは言えないけど、もう少し若い人に向けたような、そういう事もこの中に入って行って出来たらなあと思うんだけど。

(会長)はい、ありがとうございます。そこも当然考えていかないといけないところですが、ただ、海の駅はこの拠点だけで集客しようとしているのではなくて、例えば、飲食店があったり、漁協のこれから始まった定置網とか、含めてエリアとして、たくさんの人を呼んで、その中の利用する場所のひとつとして考えていくのに、拠点作ってこうと、ただ、これから来ていただくための魅力づくりを考えていかないといけない。

(区長)そしたらね、強みとか弱みとかはね、強い物はいかに強く、弱い物はいかに強みに変えていくか、考えていく場合に関連性を持たせないといけない。施設と、強み弱みという問題点の中ので良くしていかないといけない。今良いのはもっと送らないといけない、という時に、なんかもう少し若い人が来て、仮にコンサートがあったり、バンドをしたりとか、なんかそういう時があってもいいような気もするしね。これじゃあちょっと若い人が来てもそんなに魅力があるように見えないしね、と思います。

(会長)そういった若い方の意見とか十分聞いていけたらなという風に思います。また、そこら辺もよろしくをお願いします。

(区長)こんばんは。今日は一年ぶりにオブザーバーとして参加させていただきました。こういった説明を聞かせていただいて、今後地域に対してこういう事が事務局が言われたように、しっかり地域住民にPRしていく事が大事だと思います。公民館の建替えはきちんとした形でやっていく、それから今回はこの施設を作る、これについてはスペース的に駐車場のスペースが非常に狭いので、西側のヤード、今空いてるヤードの方が、あっちに思い切って、建物を建てる形の方があるいは良いのかもしれないし、そこらも検討していただきたいと思う事と、この5ページの図面を見た限りでは少し中途半端のような感じがする、なんでもありきで詰め込む中途半端な感じがして、そこまでここに描いてある作業台とか、食品加工コーナー、どういった使い方をするんだろうなって考えたら。

- 食堂って描いてありますが、今海の駅の方で食堂をなさっていると、そこらあたりの整合性、そこら辺りも配慮しなくてはなりません。途中言われたコンビニは入ったとしても時間は24時間必要ないと思う、住民サイドから聞取りが良いと思う。あともう一点、役場を改修っていうことになる、今の技術だと例えば3階とか、4階をカットしてしまうような事が出来るんじゃないのか？
- (事務局)出来るんですかね？それも逆に聞きたい。泊の庁舎って4階建なんですよ、4階部分をカットすることは出来るんですかね。
- (C o)出来ない事はないと思うけど、あとはお金の問題ですよ。あとはやり方をどうするかって話になって。
- (事務局)高くつく？
- (C o)例えば、3階のスラブっていう床を全部抜くと下を養生しないといけないと思うけど、やり方をきちっとすれば、出来ない事はないと思いますけど。
- (事務局)そのまま？結局あと耐震の部分を見ていたら、設計書を見てたら、2階3階の一部が悪いっていうんですかね、まあ、4階建ての建物だからそうなのでしょうけど。そんなに無茶苦茶大きな補強をしなくても、なんかいい方法がないのかなあと逆に思ったんですけど。
- (C o)お金さえかければ出来ると思うんですけど、お金の問題とあとはどういう風に工事するかっていう話との兼ね合いだと思うんで。
- (事務局)狭い場所ですからね。
- (区長)外から見てると4階の上に立ってるものがあるって、外の手すりの所に棒が立っているじゃない、あれ朽ちて落ちらへんかと思って、そんな感じに見える。
- (事務局)改修をかければ、全体的にはどうするかっていう議論はしていく必要があるんでしょうけど、今耐震で泊庁舎を残すという方向でいってますから、その1階部分は、結構泊地域の方使われてないんですよ、泊庁舎。今ずっと調べてるのに。で、ほんとにその時に要るのか要らないのかという議論が出てきてるんで、ただ、ここの協議会の中で残すっていう話になってますから、残すためにはどうやってみなさんに使っていただける庁舎になるのか、っていう議論をこの中でやっていく必要があるのかなと、そうすれば1階をどうする、2階をどうするって、庁舎って5時15分に閉ってしまうんですけど、閉まらない部分も作るのかどうかっていう議論もちょっと出てくるのかなあという気がしております。
- (区長)コミュニティの部分役場にもって来るといって話になると、外付けの階段を付けないといけないってなるでしょうし、ほんとに役場の窓口だけだったらここでもいいんじゃないかと思いたくないです。そこも含めて、さらに漁村センターも含めて検討いただきたいと思います。
- (事務局)2階のFTTHのあれも電化装置だと思うんですけど、置いてあるんですよ、予備の電源も含めて。それらの位置づけもあるので、一気に壊すっていうのには抵抗がある。
- (区長)やっぱり2億くらいかかる？
- (事務局)かかるんでしょうね。
- (会長)あと場所の選定も、県ともずっと並行して協議してまして、出来るだけ広い方に考えて、ぎりぎりまで行きますけど、実は漁港エリアで唯一民有地というのは、漁協の建物と店舗の所くらいしかなくて、これからスピード感もいることですし、そこと並行して広いところと並行して、スピードと並行して場所を選定していけたらなあ。
- (区長)西側は県の土地か？
- (会長)あそこは県の土地です。
- (事務局)県と話してるんですけど、なかなかちょっと難しい部分があって、1年2年をかけてどうするかっていう議論になるので。時間をかけて例えばやっていけば、町が買収すればっていうような形にはひょっとしたらなるかもしれないんですけど。ただ岸壁の方側は元々そういう施設ではないんで、そっちの方が難しい。
- (会長)継続していきます。
- (区長)2年間区長のブランクがあるんですけど、区長をしています。施設の方は検討会がやってきている、一番はレジュメの3ページ、主人公は住民です、ということですが、この協議会として、住民にどういう役割になってもらうか、区長にはどういう役割があるのか、自治会にはどうか、これから施設の話が終わると、実際に運営していく組織を立ち上げることもしくはない、いかに住民に参加してもらうか。そのあたりをやっていかないといけない。
- (会長)ありがとうございます。住民一人一人のもんだという事で、やっていかないといけないと思っていますので、その事は大事な事になってくると思います。ありがとうございます。

(区長)先日の会議でも申しましたけど、漁村センターの後をどうするかという事ですが、泊3区4区そうなんですが、一番の問題です、高齢者クラブが良く使っているんですね、区より多く使っておられると思います。その後高齢者が集まる場所ですから、飲んだり食べたり出来る場所があったらいいなど、漁村センターが無くなるんだしたら、その場所を確保していただきたい。あとは食堂の件、継続していく事が大変、東郷にあるゆるりん館ですか、あれが今後どうなるか、今はたくさんお客さんがあると思うんですけど、人が集まってくるかどうか心配です。そういう形に泊もなるんじゃないかと心配しておりますけど。

(事務局)ただ単に地域の方だけの施設ではなくて、そこには流入人口のお金もある程度見込んでいく必要があるのかなど。泊の場合はたまたまですけど、大きな道路、車社会の中では動きがとれるというのと、泊の港という大きな資産がございますので、あそこに魚釣りに行ったりあるいは、家族でちょっと寄る場所には、ある程度魅力があるのかなあと、ですからそういう事を地域の中と含めて、一緒にアピールしていくような形しか、継続できる要素は少ないのかなという気がしていますけど。

(会長)段々人口が減って行って、これは現実を見てたら分かる、協議会の中でもそこもやっぱり大事なところで、じゃあ人増やそうかって若い世代に来て下さいって言っても来てもらう所が実はない、っていう現状があって、そういう住まいと場所、宅地とか町営住宅も併せて提言させていただいてます。

(区長)ちょっとこういうふうタッチしてなかったの、勉強していかなきゃいけないなと思ってますけど、ちょっと何も考えてないんですけど、これを聞いてみた限りで、自分の区は道の便が良いので、ちょっと考えると道路の整備とかもいるのかなあと、ちょっと大げさんですけど、いりくんだりして入るより、ストンと行った方がいい、東郷に行っちゃったり、羽合に行っちゃったり、その辺をどうPRしていくか、今まで全く宣伝してきてないと思うので。

(会長)ありがとうございます。特に原区とか宇谷区とかで地域のグループの盛り上がりがある地域だと思っておりますので、個々もそうですけど、グループで共有してもらって、認識してもらっていくような形がとれたらなあと思っておりますけど。

(区長)特になんですけど、自分の区から行く場合は広い道までちょっと迂回していくような感じで、もうちょっと広い道があったらと思うんですけど、9号線から入っていくにしても、原のちょっと先の看板、あの辺の看板をもうすこし分かるようにして、石脇の方からくるにしても、もうちょっと良く分かるように、ここのこういうような物が出来たというように、案内看板みたいなのがあった方が、外から来た方が来やすい、と思います。自分の区からだとちょっと行きにくい、ちょっと大回りになる。狭い道だったらいいんですけど、歩いてでも行けれんことはないけど、やっぱり車を使いたいという事で。

(会長)ありがとうございます。みなさんに一通りご意見をいただきまして、これを踏まえて、次回の協議会からですね、内容・周知を含めて考えていきたいなあと思っております。

5. その他

・各公共施設（役場泊支所、中央公民館泊分館、漁村センター、青少年の家）及び買い物機能の検討状況の住民への周知方法について

(会長)最後になりましたが、これが一番大事なところになります。先ほど来からあります、各施設および今回新しくできる施設の検討状況の住民への周知方法という事で、やはり、ここがこれから大事になってくるのかなあとということで、委員の中でももちろん考えてみますけど、受ける側の区長さん方からもいろいろご意見が、今後こういった周知方法が必要なんじゃないかという事もいただけたらなあと思っております。特にこれ、あまりこの施設を利用しないだろうなあと思えるような、例えば20代~40代、50代くらいまで、普段の生活に困ってない方にどうやったら届くかなあ、って日々考えてますけど、なかなかいい方法がなくて、で、印刷物に頼ってしまったりとか、ってなりますけど、その辺りを各区の方々、代表の方、区長さん方々から、いろいろ今後ご意見がいただけたらなあと思っております。もしこの場でこんなことをやってくれていう事がありましたら、もし言うだけでいただけたら、十分取り入れて検討していきたいと思っておりますけど、委員の方からも今後、やり方でこんなことはどうかとか。

(事務局)今日は非常に忙しい中集まっていたという事で、実は非常にうれしいんで、なにかそのポイントごとに、通常のある程度の協議会はここでやればいけど、決定するような時には、オブザーバーとして、例えば年5回やるんだしたら、1回か2回は区長さん方の方にも案内をかけて、

発言を求めるような形をとられたらどうですかね。決定する時とか、ある程度そのものが固まった時に、どうなんですかね。それは難しいでしょうか。

(区長)良いでしょう。ふと思うのがね、今までの議論は拠点の中だけだったでしょう、周辺の集落、さっきもある地区は西を向いているという話があったが、地域ごとに特色、資源を活かした村作り、持続可能な地域づくり、これも考えなくてはならない。幸い地区によっては、活発だし農産物もある状況なので、あまり拠点だけを考えないで今後は、そういうことも考えていく必要がある。

(事務局)議論は当然、今の話もそうですが、区長さん方の話を聞いてしないとイケんでしょうけど、ただ、今会長が言ってるのは、どうやって町民の方に、泊地域の方々にそれをお知らせする手法をとる事なんだろうから、ある程度決定する時に意見を聞く場所を大変でしょうけど、持っていたいて、その時に参加していただいて、そのあと、じゃあ、前回こういう配り物をやるんだけどつていう時に、その時にはきちんと配りますよっていう形をとったらどうなのかなあ。知らないうちに配られてたつていう事よりも、そういう事前作業を整えてからやっていこうという、そういう意思疎通が出来ればいいのかなっていう気がするんですけど。そうすれば例えば区長さん方の方で、何か総会でもある時に、ちらっと一言でもそこで発言していただければ、ああそうだなって分かってくる訳です。

(会長)そうですね、もうひとつ今ちなみに区長さんが言われたのは、例えば原区でグループでいろんなお米を作ったり、西瓜を作ったり、特産品作ったり、代表すると住民団体などが活動をやつとられる、どういう関わりでこの施設と関わってイケるかっていう、関わりを作っていく事が大事なんじゃないかっていう事だと思うんですけど。

(区長)集落ごとの特徴を出していく、コミュニティバスとか拠点から集落をつなぐ。

(会長)関わりを、持てる形を考えてくださいという意味だと思うんですけどね。分かりました。

(区長)今までは、拠点の中の議論だったので、今後は各集落との関わりを考えていく。

(会長)いかに情報を出していくか、我々はどういう関り方をしようかなあってという関心を持っていたけるような、情報発信、情報共有をしなきゃいけないっていう事だと思いますけど。

(事務局)それをするときにはある程度ものが出来上がって、そこを共有していかないと、この協議会である程度ものを決めてそれに対して、アクションを起こす必要があるんで、最初にそういう施設の在り方、機能の在り方ってのが、ここの中で協議をしていただいて、画が作れた方が、今言った遠方の地域だろうが、他の地域だろうが、動きやすいだろうし参加しやすいんじゃないですか。

(会長)ソフトの部分ですね。はい、分かりました。その他各区の方、こんな方法で例えば住民団体が集まった時には話とかそれもひとつの方法かもしれませんし。

(区長)また考えます。

(会長)是非そういう関わりを考えていただいたらありがたいなと思います。そうしたら、今後は住民周知の事もこの中では考えていきたいと思いますので、そういう事で4月からもうひとつの協議会とひとつで進んでいきたいと思いますので、いかがでしょうか。

(事務局)区長さん方は、海の駅協議会をご存知ですかね？

(会長)いやあ、これ以上はまだ。

(委員)合同ですか？海の駅の役員と。

(会長)海の駅協議会とそろそろ4月から。

(事務局)この分をした時に、同じような事を海の駅もやっているんで、施設の中がだぶったり、あるいは、同じような事を別の方向で一生懸命やつたつてしょうがないじゃないかと。

(会長)やつてることは、別々の事をやつてるんですけど、目標としてはこの旧泊地域が、住みやすい良い地域になるかっていうところを目標に持っていつてますので、そろそろ一本化して、両方がひとつの目標に向かって行つた方が良いんじゃないかっていう事で、新年度からはひとつになつていつうかっていうところで動いてます。

6. 閉会

(会長)そうしますと、また、次回以降また問題が出てくるとは思いますけど、今日区長さん方からいただいた意見も十分に踏まえて、次回以降の拠点づくりに活かしていきたいと思いますので、本日の協議会は以上で終了させていただきたいと思います。